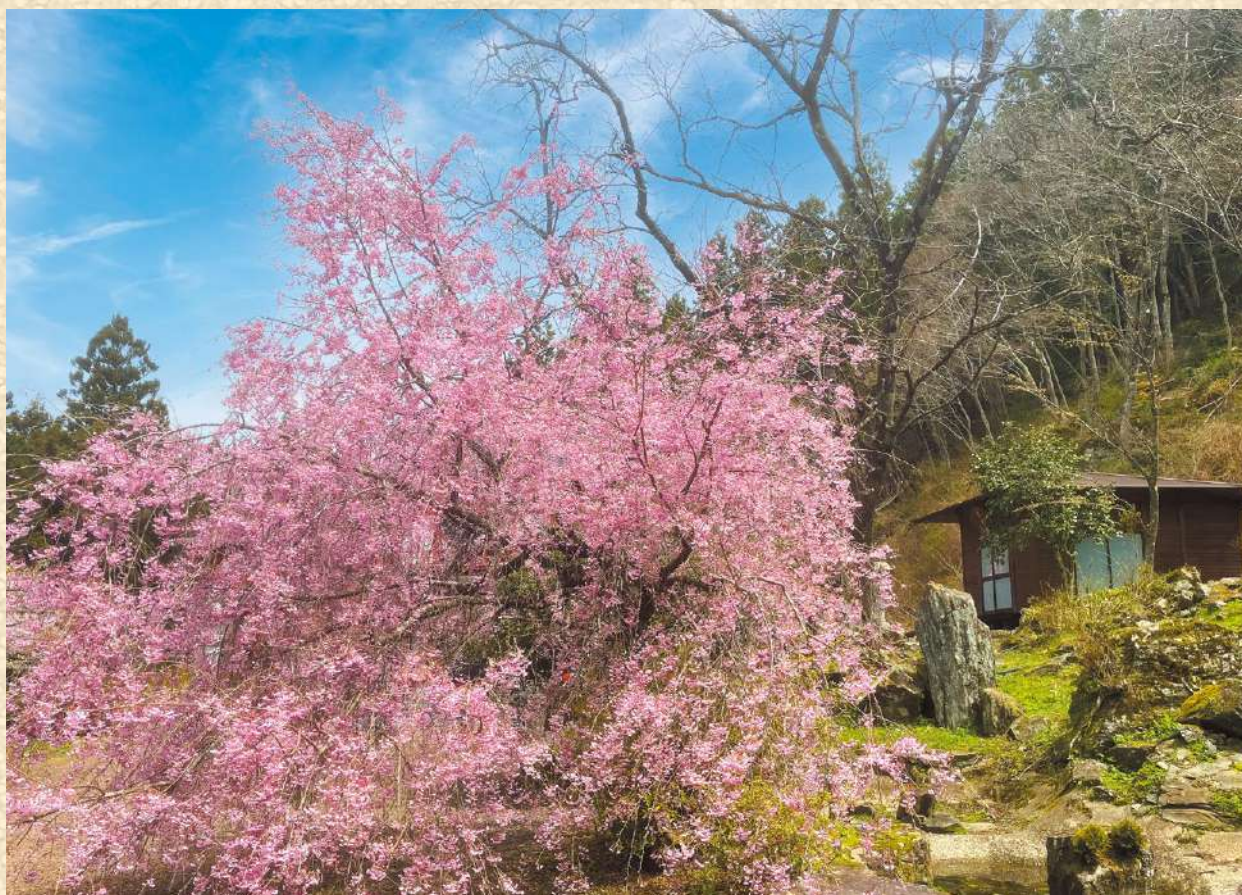




「しだれ桜と惟神殿」

天真

人びとの仕合わせのために……天真会教団

319号

令和7年5月1日発行

宗教法人 東洋最高道德学会



宗教法人 東洋最高道德学会
医療法人 天 真 会

名誉総裁
伏見 博明 殿下

今月のことば

春のかすみ

前会長
故長岡 悟

○おほどかに春のかすめる山のはに赫き夕日のいま沈み入る
○静けきはむらさきこむる山のはに茜かがよい日の沈むとき
○気多山の春にかすめる木むらより冽き小鳥の声きこえくる

天真 319 号

目次

今月のことば『春のかすみ』
前会長 故長岡 悟

- 01 ——— 天真聖典略解
前会長 故長岡 悟
- 02 ——— 令和7年 鎮花祭
～伏見博明殿下をお迎えして～
- 04 ——— 久万高原町を散策してみました。
- 06 ——— 山びこの賊 第47回
加藤 恵一
- 08 ——— 田窪さんのぶら～り山歩き
- 10 ——— 天真俳壇

題字：前会長 故長岡 悟／表紙：『しだれ桜と惟神殿』



医療法人 天 真 会

〒791-1112 愛媛県松山市南高井町333 TEL(089)976-7777

- | | | | |
|-----------------|-------------------|----------------------|----------------|
| ■ 南高井病院 | ■ 南高井病院介護医療院 | ■ 地域連携室 | ■ 南高井居宅介護支援事業所 |
| ■ 南高井デイサービスセンター | ■ 南高井訪問看護ステーション | ■ 南高井ホームヘルプステーション | ■ 小規模多機能ホーム南高井 |
| ■ 小規模多機能ホームつよし | ■ みなみの杜デイサービスセンター | ■ サービス付き高齢者向け住宅みなみの杜 | |

天真聖典略解

みおしえのてほどき

① 天真禱詞 Ⅱ 古事記 Ⅱ

前会長 故 長岡 悟

天津祝詞

天津祝詞とは、神聖で立派な祝詞という意味をもっています。
天津祝詞は、神事のはじまる前に奏上したり、朝夕のいのりのお唱えし
ます。いつ頃、誰がつくったかは不明ですが、きわめて短い文章ながら雄大莊重
です。その上すぐれた言霊の霊能力とはらひの浄化力が全体に満ちています。
朝夕、拜礼の「いのり」のときに「誠」をこめて腹の底からの声を出して高らかに、
力強くお唱え下さい。

天津祝詞 全文

高天原に神留り坐す。神漏岐神漏美の命以ちて。皇御祖神伊邪那岐命。築紫の
日向の橘の小戸の阿波岐原に。御祐祓ひ給ふ時に。生坐せる祓戸の大神等諸の柱
事罪穢を祓ひ給ひ清め給へと。申す事の由を天津神国津国八百萬の神等共に。天
の斑馬の耳振立てて聞召せと畏み畏み曰す。

【通訳】

高天原においてになる神漏岐・神漏美の男女二柱の神様のお言葉により、天皇
様の御祖神にあらせられます伊邪那岐命が築紫の日向の橘の小戸の阿波岐原とい
うところの海に入られて、祓祓をされたときにお生れになった祓戸の大神様たち、
どうか災いや不仕合せなこと罪穢をお祓ひ下さり、お清め下さいと、お願い申し
上げますことを天上にいられる神様、地上にいられる神様、その他多く神々様と
ご一緒に、高天原にいるという耳敏い斑のある馬が耳を振り立てて聞くように、お
聞き届け下さいませと畏んでお祈りします。

【註】

- ① 高天原：私たちは「タカマノハラ」と読みますが「タカマガハラ」「タカアマノハラ」「タカアマハラ」と読むこともあります。高天原は清浄な神々様のいられる天上界のことです。
- ② 神漏岐命：高御産巢霊神
- ③ 神漏美命：神産巢霊神
- ④ 命以ちて：「勅」「ご命令」「おいいつけ」「おことばにより」と解して下さい。
- ⑤ 皇御祖神伊邪那岐命：天照大神の御父様神であり皇御祖乃ち皇室のご先祖神であります伊邪那岐の大神
- ⑥ 築紫：九州のこと
- ⑦ 日向：朝日の射す国 日向国は今の宮崎県
- ⑧ 橘：現宮崎県大淀川北岸の橘公園の附近であろうといわれています。
- ⑨ 小戸：河川の水が海に流れ出る所をいいます。
- ⑩ 阿波岐原：阿波岐は「櫛」とも書きます。青葉の茂った木、常緑樹のことで櫛の木の古名ともいわれます。
- ⑪ 湊祓：「身滌」とも書きます。水に入り又は身体に水を注ぎ、身心の罪穢を洗い滌ぐ行で、伊邪那岐命の築紫の日向の湊を文獻では晴失としますが、古代日本
の信仰生活では神事の一つであって、いつも行っていたようです。「みそぎ」は「身削ぎ」で着物をとり裸になる過程を示す意もこめられているという説も
あります。「祓」は「はらひ」で「春日」「晴霊」「張る霊」等でおとろえている
「霊（気）」すなわち「気枯れ」を払って活力を興えることが「祓の神事」で日本
固有の神道の最も重要なものです。「湊祓」は水でなくとも体の具合の悪い
人は湯をつかってもかまいません。「斎まはり清まはり」という言葉があります
が、この「斎」は明らかに「湯」の「ゆ」であらうと思います。
- ⑫ 祓戸の大神たち：祓戸の大神とは○瀬織津比売大神○速開津比売大神○気吹戸
主大神○速佐須良比売大神の四柱の神様のことです。
- ⑬ 柱事罪穢：「まがごと」は「わざわい」「凶事」「禍事」で「つみ」「けがれ」は
もののけの影響で人の身に「わざわい」や「気枯れ」をもたらした「つみ」「とが」
が生まれます。「まがごと、つみ、けがれ」は人生を不仕合せに導くものです。
- ⑭ 天津神、国津神：天津神とは高天原においてになる神様、または高天原から地
上に降りられた神様、国津神は日本に土着していた地上の神様、天神地祇とも
申し上げます。
- ⑮ 八百萬の大神：多勢の神様たちと解して下さい。
- ⑯ 斑馬：高天原にいる体に斑のある馬、西部劇に出てくるインディアンに乗っ
ている毛色のまだらな馬を想像して下さい。

令和7年 鎮花祭

～伏見博明殿下をお迎えして～

4月19日(土) 11時、
上浮穴郡久万高原町大成 大成神宮にて、
令和7年鎮花祭が斎行されました。



3



2



1



4



今年の鎮花祭は宗教法人並びに医療法人の名譽総裁でいらつしやいます伏見博明殿下にご臨席を賜り、約60名の参列者のもと盛大かつ雅やかに執り行われました。

鎮花祭とは今から二千年以上も前の古神道の秘儀に属するもので、この日に限り御神前を花の辻と称して、桜の花玉串を奉る優雅な神事のことです。桜が散り始めるこの時期は、疫病の活動が盛んになるため、疫神である三輪大神の魂鎮めを行うというものです。

天地鎮めの太鼓が静寂を切り裂くように響き渡り、神事が開始されました。玉串奉奠では椿神社宮司玉串の後、伏見博明殿下による立玉串が奉奠されました。続いて代表役員、責任役員始めとして、参列者一同による花玉串が御神前に奉奠され、御神前は色鮮やかな賑わいとなりました。最後に伏見博明殿下より皆さまに「おことば」を頂き、神事は滞りなく終了となりました。

神事終了後には、きたやにて直会が行われました。参加者は伏見殿下とご歓談しながら、美味しい料理に舌鼓をうたっていました。



5



7



6

1_ 修祓 2_ 神楽奉納 3_ 伏見殿下おことば 4_ 天地鎮めの太鼓
5・6・7_ きたや直会の様子 8_ 松山検番様 9_ 伏見殿下おことば



9



8



2日間のご滞在ということで、大変短い時間ではございましたが、とても有意義で貴重な時間を過ごすことが出来ました。伏見殿下をはじめ、いろいろご協力頂きました加藤様ご夫妻には大変感謝申し上げます。またご参加頂きましたご来賓の皆様にも御礼申し上げます。
誠に有難うございました。

鎮花祭前日には松山市道後湯の町「ふなや」にてお食事が行われました。こちらでも伏見博明殿下には「おことば」を頂き、皆さん熱心に聞き入り、心に留められている様子でした。また、お食事会では、松山検番様のお座敷演舞が行われ、笑顔が絶えない会席となりました。



久万高原町を 散策して みました。

編集部

vol.05



※前号からの続き

清流面河でアイスコーヒーを頂いて、そろそろ面河溪を出発します。アイスコーヒーの付け合わせで出たキャンディもとても美味しかったですよ。ちなみに清流面河は、面河溪の自然環境保全活用交流拠点となっており、前号で紹介しましたお店や売店の他、更衣室やシャワーなども整備されていて、石鎚登山や面河溪散策などでかいた汗を流したり着替えたりできます。誰でも利用できますのでぜひ一度立ち寄ってみてはいかがでしょうか。



清流面河から溪泉亭側へ渡ります。五色橋の上から1枚。溪谷の美しさと雄大さに圧倒されます。水がすごく綺麗で透き通ってます！

面河溪を出発して来た道を戻ります。時間の都合上、石鎚スカイラインの方には向かうことができませんでした。次回機会があればまた報告致します。



しばらく走ると「面河ふるさとの駅」に到着します。場所は久万高原町相ノ木。わたくしの父の実家が近くにありますが、このあたりの風景は懐かしいです。

面河ふるさとの駅は2023年にリニューアルされたばかりで、新しいテナントが入っていました。唐揚げやジェラートのお店などとても美味しそうでした！景色は最高です！見てください。この青空と山々の緑のコントラスト！お天気が良くて良かったです。



しばらく休憩して、再び来た道を戻ります。途中、古岩屋荘の方へは行かずにまっすぐ進み、御三戸方面へ向かいます。御三戸には御三戸嶽といわれる岩の絶壁がそびえ立ちます。久万川と面河川のちょうど合流点にありますが、その姿が軍艦のように見えることから軍艦岩とも呼ばれています。見事な絶壁の上には、たくさんの松が茂っています。

近くには公園もあり、四季折々の風景を楽しむことができるスポットとなっています。夏には川に来ている人もたくさん見かけます。涼しくて良いですが、合流点にあたるため川の流れの予測がつきにくく、急に深くなっているところや速くなるところもありますので十分に注意していただければと思います。



御三戸を過ぎるとすぐに「道の駅みかわ」に到着です。こちらも先ほどの面河ふるさとの駅と同様、2020年にリニューアルされています。お土産やレストランも併設されており、自然を眺めながら食事することができます。ランチメニューもリニューアルされているようです。少し休憩を取り、道の駅みかわを後にします。



33号線を走ること約30分で久万高原町入野の街中へ入ります。ここでは何といっても「天空の郷さんさん」ですよ！ 道の駅「天空の郷さんさん」は2014年に誕生した大型の道の駅です。直売所やレストラン、パン工房など見どころ満載です。おススメは星空をイメージした竹炭入りの黒いソフトクリーム「星空ソフト」です！ ほんとに真っ黒のソフトクリームです！

さんさんにはもちろんお弁当も販売しています。わたしたちも購入させていただいて食べていますが、とても美味しいです♪ 写真は唐揚げ弁当とバラエティ弁当です。コーヒーとトイレタイムを取って、松山までもう少し。帰路に就きます。



5回に分けてご紹介してきました久万高原町の散策もとりあえず今回で終了です。次回また行けてないところへの散策にチャレンジしたいと思います。最後までお読み頂きありがとうございました。

山びこの賊

第47回
著 加藤恵一

秀吉が四国征伐に乗りだしてきたのである。

長曾我部元親に制圧された全四国が、こんどは秀吉と戦うことになった。

しかし、元親は猪伏を置き去りにして四国を切りとっていく。そして、天正十三年の春には久武内蔵助のひきいる一万六千の土佐兵が南予から中部伊予に進出、東と西南から道後間近にせまった。

こうして東西に挟撃をうけた河野氏は道後湯月城に諸将をあつめて軍議をひらき、ついに、元親の軍門に降った。

「わしは元親には敗れておらぬ。わしだけは屈伏せぬ」

河野氏降伏の報を聞くと、今はもう五十二歳になった主膳正は、まるで子供のように邀仰した。

——まんまと元親に身をかかわされ、この十年を無為にすごした。そう思うと無念が募った。

（なんとしても元親には屈せぬ。そうでなくては、奴のために死んだ者たちにあわす顔がない）

松室左馬介や露口清左衛門、菅内蔵之丞、黒川久太郎、今井作右衛門、佐伯源太夫、渡部玄蕃、そのほか、戦死した部下の一人ひとりの顔が脳裏に浮かんた。

天正二年、笹ヶ峠のいくさで戦死した黒川久太郎の遺児も元服ちかく、父とおなじ久太郎を名のらせ、

「かならず父の仇を討たせてやるぞ、おこたらず武芸にはげめよ」

と、つねづね言いきかせている。しかし、戦国という時代のエネルギーは、こうした主膳正の意地も、否、勝者である元親の野望をも一呑みにしようとしていた。

秀吉は天正十三年六月、弟の羽柴秀長隊三万余、甥の羽柴秀次隊三万余を阿波に上陸させるいっぽう、宇喜多秀家らの兵二万三千を讃岐の屋島に、また、小早川隆景、吉川元春のひきいる毛利勢三万を伊予に侵入させた。

対する元親は兵四万を四国各地に配し、みずからは白地に本陣をしいて、これをむかえ撃つ。

だが、しょせんは軍の装備からして差があった。それに上方軍は戦^{いくさ}なれしている。元親の軍も必死に戦ったが、七月二十五日、土佐一国の安堵を条件に降伏した。

そして、八月には河野氏も毛利軍に降伏する。

かつて、信長が長曾我部元親を「所詮は鳥無き島の蝙蝠」と言ったように、四国はやはり鳥無き島

であったと言わねばならない。

下城

「思いのほか厳しい処置であった」

大除城内に集まった久万山諸城の幕將をまえにして、大野直昌は暗い面持^{おももち}で言った。

反秀吉軍の主役である元親が土佐一国を安堵されたのに、河野氏は所領のことごとくを召しあげられたのである。

秀吉の伊予攻めの大将は小早川隆景であった。隆景は毛利元就の三男だが、伊予の河野通直の夫人は元就の孫娘である。つまり、隆景からすると姪にあたる。湯月城を落した隆景は、秀吉に河野家への寛大な処置を乞うたが容れられず、伊予は結局その隆景に与えられることになった。

「で、おのおの方のことであるが……」

直昌は苦渋に満ちた表情できりだした。

「おのおの方の身命については、なんの別条もござらぬが、ただ城持ちの侍はこの際城地をはなれよ、ということだ。それに家来たちもこの地で武士をつづけることは許されぬ。武士でいたくば他国に浪人せよ、伊予にいたくば帰農せねばならぬ」

直目は一同を見まわすと、
「すまぬ、許してくれ」
と、頭をさげた。

猪伏に帰った主膳正は旗本衆をあつめて、

「と、いうことだ。皆どうする」
と、きりだした。

「われら松室兄弟はどこまでも一緒にいたす。それが家代々のならいでござるゆえ」

美濃、美作の兄弟が言う、旗本全員がそれに同調した。

「して、殿はいかがなされるご所存か」

菅弥五右衛門が皆を代表するようにならずねた。

「わしは帰農する。帰農はするが、武士は捨てね。乱世のことだ、いつ、いかなることになるやも計りがたい。あるいは、再び元親めと一戦する機会が来るやも知れぬ。そのときまで、武士は捨てぬつもりだ」

「さり^{めつけ}とて目付の者なども参りましょう」

大野彦兵衛が言った。

「そうだ。この地では駄目だ。しかし、山深い未知の地にかくれ住めば目もとどくまい。さいわい、大味川村若山の菅内蔵之丞がこちらへ来ぬかと言っている」

菅内蔵之丞は、笹ヶ峠で戦死した主膳正の妹婚菅内蔵之丞の嫡子で、同名を名乗っている。つまり甥にあたる。

【続く】



第七十九歩

「保護猫」

今年の冬は皆さんどうでしたか？ 私はいつもに比べて寒かったように感じます。ただ、これから暑い季節がすぐやってくるのでしよう。服装をこまめに調整し、外気温の変化に打ち勝つてやろうと意気込んでおります。まあ、あつさり負けるだろうけど。



4月5日保護時。1週間前はもっとただれておりました



4月19日現在



捕獲？というくらい、簡単に車まで連れて帰れました

■一匹の野良猫

私の両親は西予市明浜町出身で、そこにお墓もあるため、数か月ごとに墓参りに行っております。そして少し離れた地区に、私が大好きだった大阪の伯父の墓もあるので、ついでは参りはダメだと思いつつも、めったに帰省できない親戚のため、そこにも墓参りにも行くようになりました（ついでは参りは、用事のついではダメで、お墓を続けて参るのは別に大丈夫だという話もあるようです）。

数年前から、伯父のお墓近くの農道に、複数の野良猫が集まっているのを目にするようになりました。そこにいる野良猫は松山の野良猫とは違い、逃げずに触らせてくれるのです。なので、山の中腹にある遠くて億劫だった伯父の墓参りは、猫に会える楽しみに変わっていきました（おちゃんゴメン）。そして昨年あたりから、複数いる猫の中に、飛び掛かるようにして擦り寄ってくる小さな猫が一匹いるのに気がきました。自分もその猫に会いたくて、墓参りの日は雨の日を避け、寒い日には日中に、暑い日には涼しい午前の時間帯を狙っていくようになったのです。

そんな今年の初春の肌寒いころ、いつものように墓参りに行くと、右足全体の毛が抜け落ちて肌がただれ、黄色の鼻水を垂らしながらヨロヨロと座る、変わり果てたその猫がいたのです。だからといっても自分はどうしようもできず、その日、後ろ髪をひかれつつも、墓参りをして帰路に就きました。家に帰ってから、その猫の姿が頭の片隅に残り、『どうすれば良かったのだろうか？』という葛藤やら、そのままにして帰ってしまったという良心の呵責で悩みました。

■地域の野良猫

自分たちが小さかった頃、野良猫、野良犬は当たり前のように家の周りにいて、悪さをする動物もいたけれど、周辺の人が世話をし、地域みんなで飼っていたなと思うのです。でも現在は、保護団体も増えただけれど野良犬や野良猫は駆除対象ですし、なにより地域の人の意識が変わってしまったなあ…と。実際、明浜のその集落の野良猫が人を怖がらないのは、危害を加える人がいないからだと思います。ただ、何度もその場所で猫を触っていて、通りすがりの近隣の人と話をしていても、野良猫に興味がない雰囲気を感じました。（完全な犬派だった私の母親も、兄が拾って飼いだした猫のおかげで地域猫が気になる猫おばさんに変貌しましたが）

私はNHKの世界中の街の裏道を歩く番組が好きなのですが、その中でもギリシャがものすごく好きでした。自由を愛するギリシャ人の国民性で、アテネ市の職員やボランティ



保護して 10 時間後。ゲージも用意しましたが、全く必要ありませんでした



車の中で放してみたら 10 分くらいで慣れました。ただ、このひざ掛けの上に大きなう○こをしましたが (笑)



焚き火ネコにするため、ハーネスもつけてみましたが嫌がらないので才能アリです

アが野良たちを捕獲して去勢・避妊手術をし、犬には「狂犬病予防接種済み」という目印の首輪と名札をつけ、また地域犬・猫としてふたたび街に放すというのです。だから、街中には野良犬や野良猫の多くが闊歩し、地域の人はずれを当然のように受け入れていました。

私自身、そんな街が野良たちにとっては理想だと思うのです。だから明浜の、ほとんど車が通らない・危害を加える人のいない集落で、広いみかん畑の中で野良猫として短い一生を終えるのか。それとも車が行きかう住宅街で、家の中だけをテリトリーにして長くのんびり生きるのか。でも、住宅街しか知らない猫は、広いみかん畑を走りたいとは思わないだろうし…。都会暮らしが好きな明浜の猫もいるんじゃない？ そもそも、本人に聞いてみないとわからないだろうし…と、ぼんやり、ずっと考えておりました。

■決心・保護・治療

でも、とりあえず行ってダメだったら諦める。生きていたら病気だけでも治そうと決心し、翌日、賃貸アパートに住んでいる私は、大家さんに連絡を取りました。理由を話すと、「ずっと飼われるのは無理ですが、療養の間だけというのであれば、許可いたします。私も猫を飼っているのですね…」と許してくださいました。そして、猫好き職員に相談すると、猫フードと、猫用ケージ、キャリー、ホットカーベットを用意してくれ、「なんだ！ この至れり尽くせりの迅速対応の職場は！」と、その時思いました (笑)。

そして、週末にまた明浜に行きました。朝、猫がいる農道に向かうと、その前の団地のベランダ内で、猫に餌をあげている年配の女性がいました。声を掛け話してみると、「以前に住んでいたこの団地のベランダで、数匹の猫に餌をあげていたら集落の野良猫が集まってしまった。団地から引っ越したのだけれど、野良猫の寝床が無くなってしまったのはかわいそうだからと家賃を払いそのまま餌をあげに来ている」とのことでした。

その中に、右足をケガしたその猫もいたので、預かりたい旨を話すと、ぜひ連れ帰ってほしいと快諾され、捕獲し、そのまま私の家の近くの動物病院に向かいました。幸い、右足の皮膚も感染症ではなく、トリモチらしきものから無理に剥した傷で、鼻水も抗生物質の注射を打ってもらったらほぼ治り、痒そうにした疥癬 (かいせん) も注射と薬用シャンプーにて改善しております。

■その後

そして、ここまで読んでいただいた読者の皆様。『それからその猫をどうしたの?』と気になりますよね。そうです。ご想像通り、情が移り私が飼うようになりました。ペットを飼っても良いアパートを探している最中です。そして、いずれ旅ネコ、焚き火ネコに英才教育していこうと考えております。

天真俳壇

笹鳴きの声

杉直幹松直幹冬深む

笹鳴きのこゑ往診の道すがら

一步一段慰霊に踏める春落葉

師の句碑に見ゆ春愁置き去りに

往診の帰途なり桜月夜土堤

新米の銘は石鏈遍路宿

凍てゆるぶドクターへり発着地

百選の水の拡がり恵方道

笹鳴きに往かせ権現さまの径

藤田ひろむ

宗教と文化 **天真** (第319号)

年間購読料 3,000円

発行日 令和7年5月1日

編集人 泉田孝治

印刷所 岡田印刷株

発行所 宗教法人 東洋最高道德学会
愛媛県松山市南高井町338
TEL. 089-976-7777
FAX. 089-976-6622

=歯のことなら=



清水歯科

松山市東方町
TEL(089)963-1441



<アルゴ>
ARUGOセレモニーホール
ARUGO別館
松山市錦町6-3
TEL 089-915-1171

小倉聖苑 本町ホール
松山市本町7丁目471-1
TEL 089-917-5300

株式会社 **小倉葬祭社** ☎ 0120-330-119
松山市錦町6-3 ARUGO別館2F
TEL 089-933-3008 FAX 089-933-0167